

様式 2

令和元年度 小林市立幸ヶ丘小学校 学校関係者評価書

4段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸ヶ丘小ならではの教育実践を通して、確かな学力と生きる力を身に付けた子どもを育成する。」 ① 少人数の利点を生かした教育実践を通して、学力向上を図る。 ② 子どもの将来に必要な資質を見据えた教育実践を通して、生きる力の形成を図る。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善対策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標 学力向上の推進 手段 1 複式解消によるきめ細 かな指導の充実と「わか る・できる授業」づくり とアセスメントシートに よる特性把握	1 について ○ 各種学力調査結果の分析に基づく手立ての実践や少人数指導により、個に応じた指導の充実が図られた。 ○ 職員研修においては、長期休業中に、外部講師を招き、専門的な知識を学ぶことができた。 ○ デジタル教科書やタブレット等の視聴覚教材を積極的に活用できた。タブレットについては、使用頻度に比例して児童もスキルアップ見られたので、今後も様々な場面での活用を図っていきたい。	3	3	○ 人数が少ないと子どもたちもどこか元気がないように感じた。 ○ 読書については、家で大人も読書をしている姿を見せていってはどうか。
	2 小中一貫教育（3校 人1研究授業を通じた 授業改善）	2 について ○ 全担任が、主題研究である道徳科の研究授業を実施したことで、道徳授業における共通実践事項の深化が図られた。 ○ 3校合同については、担当校を中心に合同研修会を計画的に実施できた。	3		
	3 読書活動の充実	3 について ○ 多読賞の一環としてブックビンゴを行い色々な本に親しむことをねらいに実施したところ、児童が選ぶ本の種類が変わってきた。 ● 児童の読書量は、昨年度と比べて増加しているが、家庭での読書量が認知されていないので家読を進めたい。	3		
	4 家庭学習の充実	4 について ○ 家庭学習（学習の振り返り）については、学年に応じた内容と量を計画的に取り組みさせた。また、翌日に提出課題を点検し見届けまでしっかりと行えた。	3		

	重点目標 豊かな心の育成の推進 手段 1 西小林中校区の小中一 貫教育のきまり定着及び 集団規律の徹底	1 について ○ 西小林中学校区でのきまりについては、適時、指導を行ってきたことで、規律ある集団行動が身に付いてきている。今後も、周知を図り、徹底した指導を継続していきたい。 ○ 授業の始まりと終わりの号令を「立腰」で統一したことで意識化が図られた。 ● 鉛筆の正しい持ち方については、100%には至っておらず、今後も引き続き常時指導を行っていく必要がある。	2. 5		○ いつも学校の周りがきれいで気持ちが良いと思う。続けてほしい。 ○ 周りから評価されることは喜びや自信にもつながると思う。続けてほしい。 ○ 各展示会などで、幸ヶ丘小の作品が出ているのを見ると、とても嬉しい。人数の少ない割としてはよく頑張って賞を取っていると思う。
	2 道徳教育の充実 (主題研究2年目)	2 について ○ 研究主任を中心に計画的に道徳科の授業改善を実践したことで、道徳教育の要でもある道徳授業の充実が図られた。			
	3 キャリア教育の充実				

徳 育	4 朝のボランティア活動の活性化	3について ○ 「こすもす科」については、年間計画に基づいて100%実施できた。また、地域の人材や施設を活用した取組も行えたことで、様々な方々との交流をもてた。	2. 7	3	
	5 「幸ヶ丘太鼓」の取組及び作品応募を通じた自信	4について ○ 朝のボランティア活動参加率は100%にまでは到達できなかったが、毎日活動できた。	2. 7		
	6 教育相談の充実	5について ○ 児童は、幸ヶ丘太鼓の練習に励み、発表を通して、自信と誇りを育むことができた。 ○ 作品募集や作品掲載については、今年も多くの賞を受賞したり、新聞に掲載されたりした。	3. 2		
		6について ○ 教育相談アンケートの実施、教育相談週間を設定し、児童の実態把握と早期発見・早期解決が図られた。また、気になることは保護者とも連絡を取り合い、学校と家庭が連携して心のケアに努めた。 ● 今後は、必要に応じてスクールカウンセラーの活用も図っていききたい。	3		

体 育	重点目標 健やかな体の育成 手段	1について ○ 学校保健委員会において外部講師から児童の体幹を鍛える運動やストレッチの指導を受け、親子で体力向上を図られた。 ● 体力向上プランの見直しと全校での取組を徹底して行うことで、課題（握力）克服 に努めていきたい。	3	3	○ 体力低下は全国的な問題であると思う。外で遊ぶことも一因ではないかと思う。今、子どもたちは外で遊ぶ機会が減っていると思う。 ○ 全員登校の目標があり、自己管理をしてなるべく登校しようという気持ちが芽生えると思う。
	1 一人一人に応じた体力向上の推進	2について ○ 委員会児童が、自ら計画して実施できた。 外遊びを通して、運動量も確保できている。	3		
	2 外遊びの推奨	3について ○ メディアについては、学校保健委員会で講話を行い、保護者に啓発活動が実施できた。	3		
	3 「早寝・早起き・朝ごはん」ノーメディアデーの奨励と基本的な生活習慣の定着	4について ○ 月1回の継続した体重測定を実施し、食事や運動の指導を行ったことで、少しずつながらも体調に変化が生じてきている。今後も、保護者への理解と協力を得ながら根気強く指導していく必要がある。	2. 7		
	4 肥満率の解消	5について ○ 全員登校日の150日以上は、達成できそうである。	3. 2		
	5 全員登校年間150日以上	6について ○ 治療勧告書やアンケートの実施を行い、治療率が高まった。100%達成に向けて、保護者への啓発を継続していきたい。	2. 7		
6 むし歯治療率の向上					
	重点目標 望ましい食習慣の育成 手段	1について ○ 適時、食事のマナーについての指導や食育指導を行ったことで、給食への感謝の気持ちが育まれた。	3		○ 魚のつかみ取りは、これからも続けてほしい。 ○ 親子で調理することはめったにないことなので、年に数回だが一緒に何かを作ることはいい
	1 給食指導の充実	2について			

食育	2 体験活動と関連させた指導の充実	○ 食物を育てる体験や生産者の声を聞く活動に取り組み、食への関心を高め、命を頂くことへの感謝の気持ちが培われた。	3	3	機会だと思う。
	3 弁当の日の実施	3について ○ 夏休みには、食の贈り物に取り組み、家庭の協力の下、全員が調理することができた。3月のお別れ遠足では、弁当作りに取り組むことになっている。	3. 2		
	4 家庭との連携	4について ○ 定期的に保健便りや食育便りを配付して保護者への啓発活動が実施できた。朝食は100%摂取できたので、今後は、食事内容についても指導していく必要がある。	2. 7		
その他	重点目標 保護者や地域から信頼させる安全・安心な学校づくり	1について ○ 小小・小中の交流学习を4回以上実施できた。幼保小連絡協議会については、担当校が中心となり実施できた。今後も連絡調整を図って、計画的な実施に努めたい。	3	3	特にない。
	手段	2について ○ 学校運営協議員の協力を得て、本年度も学校運営協議会を実施し、地域や保護者の意見を学校運営に努めることができた。	3		
	1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	3について ○ 避難訓練については、計画通りに実施できた。1年間を通して、火山警戒レベルが1～2を行き来し、登下校時のヘルメット着用も定着している。	3		
	2 学校運営協議会の推進	4について ○ 適時、服務研修を実施し、職員の法令遵守の意識高揚に務めたことで、信頼される教職員の育成に繋がった。	3・5		
	3 防災教育の推進	5について ○ 学校業務見直しに係る仕分けについては、職員会で話題に上げていき、改善を図ったことで、時間的ゆとりが生まれた。そのことで教材研究や児童理解が深まった。 ● 時間については、定時開始、定時終了を互いに声かけ厳守していく必要がある。	2. 7		
4 信頼される教職員の育成					
5 働き方改革に向けた業務改善					

<p>次年度の方向性についての校長所見</p>	<p>本校ならではの教育活動について、全職員が一丸となって取り組んできたことを的確に評価していただいた。いつも見守り、支えていただき感謝しております。</p> <p>これは本年度の学校経営ビジョンが学校の教育的課題を踏まえたものであるとともに、地域の実態にも合致しているため、本校職員の学校経営ビジョン達成に向けた様々な取組の成果であると言える。</p> <p>特に、極小規模校ならではの複式解消による「きめ細やかな指導」の充実によって児童に学力が定着していることや児童が自信をもって活動する姿を学校運営協議会委員にも高く評価していただいた。次年度も引き続き、児童の学力向上と健全育成に努めていきたいと考える。</p> <p>また、知育・体育・食育に係る内容では、少人数の特性を活かすとともに、保護者や地域住民、関係機関等との連携・強化を図りながら推進していきたい。</p>
-------------------------	---